

第9回薬物依存症者回復支援セミナー DARS川崎 報告書

【1月21日】川崎市国際交流センター 13:00~17:20



<司会、進行>
龍谷大学 石塚伸一教授からの趣旨説明。



NPO法人アパリ事務局長
尾田真言氏より刑事司法制度への薬物依存症者治療導入の今までの試みが報告された。



日本ダルク代表
近藤恒夫氏より依存症者の回復についての事例が様々な角度からあげられた。



シンポジウム
「刑の一部執行猶予」に伴う「緊急的住宅確保自立支援対策事業」についての想定される問題点などが話あわれた。

【1月22日】川崎市産業振興会館 9:30~16:30



国立精神・神経医療研究センター
松本俊彦氏 マトリックスプログラムの現状と今後について説明していただきました。



龍谷大学
土山希美枝博士 依存症者の回復過程における他機関との連携（協働）について訴えられた。



東海大学健康科学部
宮永耕氏 薬物依存症者の回復援助などの社会福祉の現状と今後の課題。



三重ダルク代表
市川岳人氏 重複障害を持つメンバーに対してのダルクの課題について



沖縄ダルク代表
三浦陽二氏によるダルクミーティングを参加者全員で体験している様子。

警察関係から保護司、依存症者の家族、ダルク関係、看護師、更生保護施設など各分野から40名以上。2日間通算80名以上。予想していた人数より多くの方の参加がありました。10年以上にわたり共同研究を行ってきたDARSの日本版ドラックコート構想や各専門家の話に参加者一同、真剣に耳を傾けていました。

